

## 第7回高砂市新たな学校づくり推進審議会 会議録

日 時 令和7年12月11日（月）19時00分から

場 所 高砂市役所分庁舎1階大会議室

出席者

【委員】（名簿順、敬称略）

押田 貴久、安枝 英俊、塩田 和子、坂田 克己、橋本 尚人、三好 美弥  
衣笠 彩、大谷 敬一郎、塩谷 右京、川由 伸一、砂川 辰義

【事務局】

玉野教育長、木田教育部長、吉金教育推進室長、平山学校教育室長  
竹内教育総務課長、石原教育総務課主幹、長谷川教育総務課係長、井上教育総務課職員

【事業者】

ファインコラボレート研究所（土肥）

欠席者 4名

傍聴者 0名

内 容

- 1 開会
- 2 議題
  - (1) 高砂市が目指す「これからの学校像」
  - (2) 「高砂市新たな学校づくり推進計画」の策定について【中間報告】（案）
- 3 閉会

資 料

【事前配付】

高砂市新たな学校づくり推進審議会（第7回）次第

資料1 これからの学校像の見える化

資料2 「高砂市新たな学校づくり推進計画」の策定について【中間報告】（案）  
～計画策定に向けた方向性～

【投影資料】

第6回高砂市新たな学校づくり推進審議会資料の内容について（審議会後）  
高砂市が目指す「これからの学校像」（第6回審議会資料3）

1 開会	
事務局	先日送付させていただきました次第、資料1のこれからの学校像の見える化、資料2の「高砂市新たな学校づくり推進計画」の策定について【中間報告】（案）はございますでしょうか。 前回同様、審議会の様子を撮影させていただきたいと思いますので、支障がございましたら、事務局にお申し付けください。
会長	高砂市新たな学校づくり推進審議会条例第七条の規定に基づき、今回の審議会は公開とします。傍聴希望者はいらっしゃいますか。
事務局	傍聴の申し出はありませんでした。
会長	委員の出欠状況をお願いします。
事務局	小学校 PTA 代表の八木委員、市民代表の實川委員、山里委員は欠席との連絡をいただいております。また、坂牛委員がまだお越しではありません。
会長	3名の委員が欠席、坂牛委員がまだお越しになっていませんが、過半数の委員の出席をいただいておりますので、高砂市新たな学校づくり条例第六条第2項により、本会は成立しております。 それでは、第7回高砂市新たな学校づくり推進審議会を開会します。 議題に入る前に、第6回審議会後に委員からいただいた意見を事務局より説明をお願いいたします。
事務局	スクリーンをお願いいたします。前回の審議会終了後にいただきましたご意見についてご紹介いたします。 参考資料4 他市町村の整備事例について、建物や周辺環境の設計は、子どもの育ちや地域との関わりに大きく関わるといえる点で重要だと思う。これは環境が人を変えろという自身の考えとも一致しているが、それ以上の優れたアイデアが多く提示されていた。この考え方は学校関係者の働き方や考え方にも影響を及ぼすと考えており、この方向性に基づけば、地域と学校は無理に連携といわなくても自然に融合していくと考えている。 他市町村の事例が非常に印象的で、理想論に聞こえる部分もあるかもしれないが、実際に通う小学生がワクワクし、通いたいと思える工夫が多く含まれていると感じた。特に、オープncラスやクラスセットの取り組みは、子どもたちの主体的な学びや交流を促す点で魅力的である。 通っていた小学校には、クラスとクラスの間ベンチスペースがあり、その空間で他クラスの友人と自然に交流が生まれたのが今でも思い出に残っている。形は異なるが、オープncラスやクラスセットも普段関わりの少ない仲間と自然に関係を築ける場になると感じている。 大学の卒業研究として、なぜ若者は地元から離れていくのかをテーマに取り組んでおり、まだ研究途中ではあるが、地域の人との関わりが地域愛着を育むうえで非常に重要であると痛感している。小学生の頃、地域で見守り活動をされていた地域の方が大好きで、そうした関わりが自分の原体験となっている。 高校時代にも、一部の授業を地域の方と一緒に受講できる機会があり、学びを通じて関係が深まった経験があった。そのような形で地域の人と子どもが自然に交流できる学びの仕組みを取り入れることも、地域に愛着を持つきっかけになるのではないかと考えている。 その他、小中一貫＝同一敷地・施設を前提として考え、それを実現する方向で計画を進めるが、諸条件を踏まえてやむなく実現できないこともあるという考え方だと認識していたが、小中一貫＝同一敷地・施設ではないと理解ができた。 建物が離れていれば、必ずそれぞれにトップが生まれ、その関係性によって連携のあり様が変わるし、建物の距離があれば、人の連携は途端に難しくなると思う。小中一貫は建物が離れていてもできるという話もあるが、現状できていない状態ではできるわけがないと考えている。これは学校関係者が悪いのではなく、

	<p>制度・環境・物理距離がそうさせてしまうのだと思う。さらに、同一敷地・施設での運営は、管理職の削減や業務の一元化などにより、コストの削減ができるといったご意見をいただいております。</p>
<p><b>2 議題 (1) 高砂市が目指す「これからの学校像」</b></p>	
<p>会長</p>	<p>議題 (1) 高砂市が目指す「これからの学校像」について事務局から説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>スクリーンに前回の資料をお示ししていますのでご覧ください。</p> <p>審議会の議論でまとめた各テーマの方向性が一番左に、そして様々な対象から意見を聴取した内容を踏まえ、高砂市が目指すこれからの学校像のキーワードを列記したものを右側に表現させていただいております。これらをイラストで表現することについて、本当に実現できるのか、誤解を招かないかのご心配のお言葉をいただいております。事務局の中でも検討しましたが、どのような学校を目指そうとしているのかを市民の皆様とイメージを共有したく、イラスト化は必要であると考えております。ただ、誤解を招くような表現であってはなりませんので、そういった内容については修正を行いました。</p> <p>イラスト化の内容は理想ではなく、実現していくものと考えておまして、そうなるにはこの計画をどうすればよいかということ、引き続きしっかりと考えてまいりたいと思います。</p> <p>資料1をお願いいたします。</p> <p>左上の灰色の枠をご覧ください。一定規模の学習集団では、一定数の児童生徒が関わり、切磋琢磨する環境や多様な意見に触れる機会、コミュニケーション能力が育ちやすい環境は必要であるとして、活気ある音楽会の様子や様々な意見が飛び交う活発な授業風景をイラストでお示しました。現状と合うように少し調整をしております。</p> <p>地域の実情を踏まえた通学方法・通学手段のイラストも前回と変更はございませんが、再編にあたり、地域の状況によっては通学手段の負担軽減策の検討が必要であるとして、スクールバスや自転車通学といった考えられることをお示しております。</p> <p>左下の青色の枠をご覧ください。連続性のある学びの推進は、前回、一貫教育の推進という文言でしたが、修正しております。こども園、小学校、中学校の連続性のある学びを推進するため、教職員等の密な協議、調整、学年を超えた子どもたちの交流が必要であること、またそういったことがしやすい環境づくりが必要であるということをお示しております。</p> <p>教育DXの推進では、遠隔授業により外国と交流する様子とともに、タブレットや電子黒板を用いたAIによる学習支援、デジタル教材による学びなどを追加しております。</p> <p>個別最適な学び、協働的な学びの推進では、個別最適な学びとして一人ひとりに合わせた学習ができる環境の様子、児童生徒が互いに協力しながら学べる環境をお示したのですが、タブレットの活用など、これからの学びに合うように修正しております。</p> <p>探究的な学びの推進では、前回分を差し替え、地域人材や資源を活用した学習として稲刈りの様子、産官学民と連携した高砂STEAM教育の推進として、子どもたちが自ら学んだ内容をプレゼンしている様子を示しています。</p> <p>右上のピンク色の枠をご覧ください。多様なニーズへの支援は変更ありません。ユニバーサルデザインは、誰もが使いやすい施設や移動しやすい施設としてトイレやエレベーターを利用している様子を示しています。</p> <p>老朽化対策は計画的な整備・維持管理による安全安心な校舎として建築工事を行っている様子をお示しております。</p> <p>快適に過ごせる学校施設では、打合せスペースなどのある職員室、児童ヒアリングから熱中症対策や雨の日でも屋内で遊べる環境という声をいただいております</p>

	<p>ので、それをイラスト化したものを追加しております。これは、新しい多目的室を作ることを想定しているのではなく、空調設置が完了した体育館も同様の機能が確保できると考えております。</p> <p>防犯対策では、防犯カメラを設置している様子や、校門の電気錠システムにより開錠を管理している様子をお示ししております。プールのあり方については変更ありません。</p> <p>給食のあり方では、給食のセンター方式が伝わりづらかったことから、トラックで運搬している様子に修正しております。</p> <p>右下の黄色の枠をご覧ください。学校運営協議会の充実では、左に学校運営協議会の方々が拠点スペースにおいて活発に議論されている様子、地域との多様な交流として子どもたちが地域の方々と手遊びしている様子をお示ししております。</p> <p>部活動の地域展開では、文言を地域住民や地域クラブが主体となった活動の実施として、サッカーやお花をしている様子をお示ししております。</p> <p>防災機能強化では、防災訓練の合同実施や防災備品倉庫の様子をお示ししています。</p> <p>学校施設の複合化・共用化では、地域の人も利用できる空間として、さまざまな世代の人が施設を活用している様子、図書館など学校施設と地域の方々が利用する施設を複合化している様子をお示ししております。</p>
委員	<p>学校・家庭・地域の連携の充実は、記載内容の多くが地域に関するものとなっている印象を受けましたが、家庭については地域の一部として含めて整理されているという理解でよろしいか。</p> <p>イラストの中で家庭をどのように位置づけ、表現しているか検討している内容がありましたら、教えてください。</p>
事務局	<p>学校・家庭・地域の連携の充実については後ほどご説明しようと考えていましたが、前回は、地域とともにある学校の推進という文言で表現しておりました。ただ、地域とともにある学校の推進ということが狭義に受け取られる場合もありますので、ここでいう地域には家庭も含まれるものとして捉えています。将来の学校の姿を見据えると、より広い意味合いでの取組が必要ではないかと考え、学校・家庭・地域の連携の充実とさせていただきます。</p>
委員	<p>“見える化”は内部協議の資料に感じますが、一般の方が分かるような表現にしないのですか。</p>
会長	<p>見える化という表現になっていますけれど、計画の方ではこれからの学校像という形で絞っていくので、公表するときは修正する形になると思います。</p> <p>給食のあり方で、中学校は給食センターからの配送、小学校は自校式による給食の提供を並列で書かれています。これは将来的にはどちらの方向に進むのでしょうか。</p>
事務局	<p>審議会でご協議いただいた結果として、小学校は自校式、中学校は給食センター方式で、再編の内容によっては小学校の自校式に固執するのではなく、センター方式も含めて検討していく方向でまとめさせていただいたと考えております。</p>
<p><b>2 議題 (2) 「高砂市新たな学校づくり推進計画」の策定について【中間報告】(案)</b></p>	
会長	<p>議題(2)「高砂市新たな学校づくり推進計画」の策定について【中間報告】(案)について事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>新たな学校づくり推進計画は、適正規模・適正配置の基準を定め、校区再編計画や学校施設の整備基準、ロードマップなどを検討するものですが、単に学校の統廃合を目的とするものではなく、未来を見据え、これからの学校像の実現につながる計画とすることが重要であると考え、小中学校を取り巻く多面的な現状把握や課題の整理を行い、テーマを設定したうえで、さまざまな対象からいただいたご意見も踏まえながら、これまで協議を重ねてきました。</p> <p>本資料は、今後、これからの学校像の実現につなげるために、計画をどのような方向性で検討していくのかを示すとともに、これまでの協議内容を整理した中間</p>

報告（案）となります。

スクリーンに表示しておりますとおり、前回は新たな学校づくり推進計画の策定にあたり、これからの学校像を実現するための「4つの基本方針（案）」として、事務局から提案させていただきました。今回からは、表現を「4つの目指すべき方向性」に改めています。

資料2の11ページをお願いいたします。

前回までの議論を踏まえ、必要な内容を整理し文章化したものです。構成としては、まず(1)から(4)までの4つの方向性を示し、それぞれについて、今後どのような考え方で計画検討を進めていくのかを記載しています。

黒い四角で示している部分が、審議会で整理された方向性です。13ページ以降にチェックマークを付した項目がありますが、こちらは今回、事務局提案として追加した内容になります。

(1) 多様な教育活動ができる学習集団の規模の確保は、資料1のこれからの学校像の見える化の灰色の枠に対応する内容です。多様な教育活動を実現するためには、一定の学習集団規模の確保が必要であるとの考えから、適正規模・適正配置について、これまでの審議内容を整理しています。なお、基準内であっても通学距離が長くなる場合には、地域の実情を踏まえ、負担軽減策を検討することを付記しています。

右側の点線の枠には、昨年11月に実施したアンケート調査の結果を掲載しています。

12ページをお願いいたします。

(2) 新しい時代の学びに対応した教育環境の整備は、資料1のこれからの学校像の見える化の青色の枠に対応する内容です。

連続性のある学びの推進では、教育振興基本計画を受けた取組を進めておりますので、その内容を掲載しています。また、こういった取組を進めるとともに、審議会でまとまった3つの方向性を重視し、計画の検討を進めることが妥当であるとしています。

新たな学びへの対応では、前段に高砂市が取り組んでいる内容をお示しして、その取組を進めるとともに、審議会でまとまった3つの方向性を重視し、計画の検討を進めることが妥当であるとしています。

右側の点線の枠には、意見聴取でいただいた意見を掲載しています。

13ページをお願いいたします。

(3) 安全・安心、快適に過ごすことができる施設の整備は、資料1のこれからの学校像の見える化のピンク色の枠に対応する内容です。

学校施設の安全性の確保と機能性の向上では、審議会でまとまった給食・プールの方向性に加え、チェックマークで記載の2点を追加しています。

チェック項目の1つ目、防犯カメラの設置などによる安全性の確保の検討については、先日も刃物を持った女性が侵入したというニュースがございましたけれども、そういった不審者対応など安全性の確保をどう図るかということも踏まえて追加しています。2つ目、ユニバーサルデザインによる誰もが使いやすい施設の検討については、エレベーターやユニバーサルトイレなど建物更新時には必須となるため追加しました。

多様なニーズへの支援では、前段に高砂市が取り組んでいる内容をお示しして、その取組を進めるとともに、審議会でまとまった2つの方向性を重視し、計画の検討を進めることが妥当であるとしています。

児童生徒、教職員が快適に過ごせる学校施設では、審議会や意見聴取でいただいたご意見から、チェックで記載の4点について重視し、計画の検討を進めることが妥当であるとしています。

1つ目の多様な学習活動を展開しやすくするため、施設更新時に教室の面積の見直しを検討しています。これについては、協働的な学びや探究的な学びにおいて、グループ学習や発表など、多様な形態で取り組まれており、そのためのスペ

	<p>ースやタブレットで学ぶには今の机では小さいとも言われていますので、机の適正化を図るためには一定の教室の大きさが必要となるため追加しました。</p> <p>2 つ目の職員の業務スペースとして、職場環境の向上を図るについては、先生が安心して働ける環境を整えることがこどもの充実した教育につながるのではないかという意見があり、その通りだと思っています。職員室といった教職員の業務スペースの職場環境の向上は必須であることから、追加しました。</p> <p>3 つ目の教室以外の児童生徒の居場所として、多目的スペースやオープンスペースの検討については、熱中症の危険性がある夏はなかなか外で遊べないから、屋内で体を動かしたり遊んだりしたい、休み時間は異なるクラスや学年の子どもたちとお話しするのに、廊下で話をしているといた声をいただいており、空調を設置した体育館を休み時間に活用することもこちらに該当すると思います。それも含めてこどもの居場所づくりは検討すべきということで追加しました。</p> <p>4 つ目の荷物の置き場所や机の適正化の検討については、ロッカーが小さく荷物が入らない、 Brett など扱うには机が小さいといった問題に対応すべきだと考え追加しました。</p> <p>15 ページをお願いいたします。</p> <p>(4) 学校・家庭・地域の連携の充実、資料 1 これからの学校像の見える化の黄色の枠に対応する内容です。</p> <p>地域とともにある学校の推進では、前段に高砂市が取り組んでいる内容をお示しして、その取組を進めるとともに、審議会でもまとめた 3 つの方向性とチェック項目の地域の自然、歴史、文化、産業などを「教材」とした学習や地域で活躍する様々な人々と連携した教育活動を展開するを重視し、計画の検討を進めることが妥当であるとしています。</p> <p>学校環境の向上に資する学校施設の複合化の検討では、審議会でもまとめた 3 つの方向性を重視し、計画の検討を進めることが妥当であるとしています。</p> <p>避難施設としての防災機能強化では、小中学校は災害時の避難所として指定されていることから、右側の意見聴取の抜粋にもありますように、地域の方々から様々なご意見をいただいております。</p> <p>学校施設・避難施設としての防災機能強化を図る必要があるとして、1 つ目、施設更新時に、防災拠点として必要な設備を計画的に整備し、災害時に地域住民が安心して避難できる環境を確保する。2 つ目、浸水想定区域など地域特性を踏まえ、水害時にも機能する避難所として、安全性と継続性を高める。を追加しました。</p> <p>17 ページ以降は参考資料として添付しています。</p> <p>審議会での検討はまだ途中段階ではありますが、今後、再編案や学校施設のあり方を検討していくうえでの方向性については、一定の整理が進みました。この方向性は非常に重要な内容であることから、審議会での検討内容を一度、教育委員会に報告する形を取りたいと考えています。前回の審議会では方針の骨子をお出しすると説明させていただきましたが、庁内で審議会の検討の途中段階であれば、成果品のような膨大な冊子とすると読みづらいし、まずはしっかりと先ほどご説明しました方向性を伝えられるものにしたほうがいいのではないか、たくさん検討してきた様々な資料は最後に通して出す形でいいのではないかという指摘を受けましたので、こちらを案としてお出しし、審議会でもいただいたご意見を反映した中間報告書としてまとめたいと考えています。</p> <p>報告を受けた教育委員会は、総合教育会議で市長とも協議し、その内容を踏まえ、教育委員会としての方向性を公表する予定です。</p>
<p>会長</p>	<p>当初は「高砂市の新たな学校づくり基本方針」ということで今年度中にまとめる形でしたが、事務局の方で整理し、計画策定についての中間報告ということで、一度取りまとめをしようという提案になります。</p> <p>まず、2 ページから 7 ページのところ、ご意見等がありますか。</p> <p>7 ページの部活動の地域展開で、地域クラブ等への夜間・休日の貸出しが増加す</p>

	ることが予想され、鍵の受け渡しによる教職員の負担が増える可能性があります。鍵の受け渡しは教職員が行っているのでしょうか。
委員	教職員が行っています。
会長	神戸市では地域に学校施設開放委員会というのがあって、そちらが鍵の受け渡しを基本的に行う形になっています。なので、教職員の負担はないと思っていましたが、本当に大変な状況だということを確認しました。
委員	2ページの資料が20年後までと40年後までで表現が揃っておらず、わかりにくいので合わせた方が良くはないのでしょうか。
事務局	児童生徒数の推計は40年後まで算出しています。一方、20年後までの推計としてお示ししているのは学校ごとの学級数の推移で、こちらも40年後まで推計することは可能ですが、推計期間が長くなるほど正確性に欠けます。そのため、児童生徒数についてはおおよその傾向として40年後に現在から約54%減少する見込みを示し、学級数の推計については、一定の妥当性が見込める20年後までとしています。
委員	児童生徒数の推計のグラフに20年後は何人と入れたらわかりやすいと思います。
会長	本審議会は2024年から開始していますが、本報告書の公表時点では2年ほどのずれが生じることとなります。この点をどのように整理するかという課題はありますが、議論を開始した2024年時点を基準として、本資料を用いる整理が良いのではないかと考えています。本来であればアップデートした数値を用いることが望ましい面もありますが、今回は2024年現在を起点とした推計として扱いたいと思います。 8ページは、実際に実施した意見聴取の結果を踏まえ、「主な意見」として整理したものです。詳細については、参考資料として膨大な量の資料を添付していますので、このような整理で良いかご確認をお願いします。 9・10ページのこれからの学校像は、先ほどご確認いただいた内容と同じです。 11ページ以降の4つの目指すべき方向性について、お気づきの点やご意見はありますか。
委員	本計画は今後の方向性を示す重要なものなので、可能であれば、いつまでという目安となる時期や年度を具体的に盛り込んではいかがでしょうか。 例えば、13ページでは小学校の水泳指導を民間プールに委託することが示されていますが、実施時期は明記されていません。一方で、15ページでは令和10年度を目途に部活動の地域展開を進めると具体的な年度が示されています。今後の検討の指針となるものですので、可能な範囲で実施時期や目標年度などを示すことで、計画の実効性や分かりやすさが高まるのではないかと考えますが、いかがでしょうか。
事務局	小学校の水泳指導の民間プールへの委託化について、具体的な年数を明記していない理由としては、高砂市内に民間プールが現在1施設しかないことに加え、市が進めている市民プール廃止に伴う民設民営プールの誘致についても、現時点では具体的な時期が明確になっていないためです。これらの見通しが立ち次第、委託化の時期についても、より具体的にお示ししたいと考えています。 また、現段階では目指すべき方向性を整理している段階であり、来年度以降、再編案の検討や、再編に伴う学校施設の整備時期については、具体的な年度を示していく予定です。各施設についていつ頃、どのように整備していくのかといった点についても、一定の目安をお示しできるようになると考えています。 このように、現時点では方向性を示すことを重視していますが、今後の計画策定の中で、実施時期や年次についても段階的に明確化していく考えです。
委員	小学校のプールについて、“民間委託”と明記しているのは、民間が市全体の小学生を受け入れられるサイズの施設を整備することを把握しているからではないですか。

事務局	確かに民設民営のプールを誘致するという話が進んでいますが、プールの完成時期や運営開始年、事業者など具体的なことは決まっていません。そういったところが進めば、水泳授業の民間委託を進めていきますので、今の段階で期限を明確にするのは難しいです。
会長	<p>学校施設の安全性の確保と機能性の向上について、これまでの議論では給食、プールという順で示されていますが、学校施設の安全性や老朽化への対応を最優先事項として位置付け、その上で給食やプールといった個別の取組を展開する構成にしたほうがよいと思います。意見聴取についても、学校施設の老朽化に対する早期対応を求める声が多く、施設改修の必要性をより強く訴えることが重要だと思います。</p> <p>給食については、小学校は原則として自校式給食を進めつつ、学校再編の状況に応じてセンター方式を活用するという整理で理解していますが、中学校区単位で調理を行う方式や、中学校における自校式給食の導入など、温かい給食の提供を前提とした多様な手法についても検討の余地があるのではないのでしょうか。小学校の給食が高く評価されていることを踏まえ、その良さを中学校でも実現できるかどうかを含め、他自治体の事例も参考にしながら検討していただきたい。</p>
委員	<p>16 ページの避難施設としての防災機能強化の黄色で囲まれた部分について、こども園と小中学校が一体化、あるいは隣接している場合、災害時に相互に連携・協力しやすく、安心感が高まるという利点があると感じています。すべての施設で同様の配置とすることは難しい面もありますが、こども園と小学校が隣接する環境は、園小連携の観点からも心強いものがあります。</p> <p>阿弥陀こども園では、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れ、廊下を挟んで5歳児と4歳児のクラスが向かい合う配置とすることで、保育の様子を互いに確認し合える構造となっており、職員の資質向上にもつながっていると感じています。さらに、調理室を子どもたちが見える配置とするなど、日常の保育に活かせる工夫が随所に見られます。支援を必要とする子どもたちについても、保育室だけでなく、さまざまな場所で遊びや活動ができるよう配慮された空間構成となっており、職員同士が交流しながら学び合える環境が整っています。こうしたこども園での施設整備や空間づくりの工夫は、今後の学校建築においても参考になる点が多く、ぜひ活かしていければと考えています。</p>
委員	<p>小学校から中学校への進学は多くの子どもが不安を感じるものですが、園から小学校へ上がる段階においても、生活環境や人間関係が大きく変わるため、子どもにとっては大きな不安要素になると感じています。</p> <p>こども園と小学校が隣接しているところでは、小学校に進学した後も園舎が見え、顔なじみの先生の姿が見えることで安心して頑張ることができたという声をよく耳にしました。こうした安心感は、就学期の子どもたちにとって非常に大切なものだと思いますので、園から小学校へと進む際の不安を少しでも和らげるために、今後も検討していければと思います。</p>
委員	<p>こども園と小学校が離れていると、子どもたちは小学校の様子について十分にイメージできていないと思いますので、園と小学校が同じ敷地内あるいは隣接していることは、こどもや保護者にとって大きなメリットがあると思います。</p> <p>保護者は毎日学校に通うわけではないので、こどもがどのような環境で学び、どのように過ごしているのかについて、不安や関心を抱くものだと思います。そのため、学校に通う子どもたちの様子だけでなく、学校の環境や日常の過ごし方について、保護者にも丁寧に伝えていくことが重要だと感じています。</p>
会長	義務教育は9年間とされていますが、その前段階である就学前から学校との関わり方や、小学校へのスムーズなアプローチについても、公立・私立に関わらず実現できる環境を検討していくことが重要だと考えます。
委員	高砂中学校区では、こども園も含めた一つの学校運営協議会を設置し、連携した取組を進めています。こども園・小学校・中学校それぞれの行事については、す

	<p>べて計画書を作成し、情報を共有しており、相互の交流が図りやすい体制となっています。</p> <p>会議のたびに資料を通して各校園の取組内容に触れることができるため、声がかかれれば積極的に参加しています。また、中学校においては、生徒会の生徒がこども園を訪問する活動も行っており、世代を超えた交流が生まれています。</p> <p>こうした取組は、こども園・小学校・中学校が隣接している高砂地域ならではの強みであり、日常的に連絡を取ることが大事だと考えています。</p>
委員	<p>4 ページに記載されている高砂 STEAM 教育という文言は、一般の方が読んだ場合、何のことだろうと感ずる可能性があります。そのため、もう少し分かりやすく、どういう意味なのかを簡潔に示した方が、理解しやすくなるのではないかと思います。</p> <p>この中間報告は、誰に重きを置いて読んでもらいたいのかを改めて整理したうえで、用語についても見直していただき、分かりにくい箇所には注釈や簡単な説明を加えるなど、より親切的な表現にさせていただくことが望ましいと考えます。</p>
会長	<p>中間報告は誰向けなのかという意見がありました。事務局としてはどのように考えていますか。</p>
事務局	<p>中間報告は教育委員会にするという形をとりますが、こちら公開しますので、市民の方々にも目を通していただきたいと思ひます。</p>
委員	<p>資料 1 の灰色部分にある地域の実情を踏まえた通学方法・通学手段では、スクールバスと自転車通学の 2 つが示されているのに、資料 2 の 11 ページでは最下段に米印で補足的に触れられている程度にとどまっています。この構成を見ると、せっかく 2 つのイラストを用いて示しているにもかかわらず、その意図や内容が十分に伝わっておらず、イラストがもったいない印象を受けます。</p> <p>通学方法については、自転車通学、公共交通機関を利用した通学、スクールバスの運用など、もう少し具体的に記載したほうが良いと思ひます。</p>
事務局	<p>本文にも記載し、米印でより強調したつもりだが、小さく書いた感じに受け取られてしまう表現であれば工夫します。</p> <p>さまざまなことが考えられますので、具体的な通学方法の明記は難しいですが、波線などで強調する形で、表現したいと思ひます。</p>
委員	<p>負担軽減策を検討すると記載しているのに、米印だけだと別にしなくてもいいのかと受け取られてしまう可能性があると思ひます。イラストを入れている以上、抽象的な検討にとどまらず、具体的にどのような選択肢を想定しているのかを一定程度示したほうが良いと思ひます。</p>
事務局	<p>「など」という形で、色々なことが考えられる事例の一つとして挙げることも検討させていただきます。</p>
会長	<p>12・13 ページのアンケートの表が見づらいので、工夫していただきたいと思ひます。</p>
委員	<p>先ほどもありましたが、すべての資料で何年時点を示すか揃えた方がわかりやすいと思ひます。</p>
委員	<p>“～など”と表現されているところは、少し具体的に記載してはどうでしょうか。例えば、15 ページの学校環境の向上に資する学校施設の複合化の検討の部分は具体的に施設を書いたほうがいいのではないのでしょうか。</p>
会長	<p>具体的な事例については、ご検討いただければと思ひます。</p>
副会長	<p>15・16 ページに学校・家庭・地域の連携の充実とあるのですが、細かい内容を見ると、家庭という言葉が 1 回も出てこないで、もしタイトルに入るのであれば何らかの形で入れる必要があると思ひます。</p> <p>こどもを安心して学校に通わせられることや、学校の状況が保護者にも分かるように見える化をしてほしいという意見がありましたが、家庭との連携を考える上で非常に重要な視点ですので、計画の中に反映させたほうが良いと思ひます。</p> <p>家庭と地域が一体となってこどもたちを見守り、育てていくという方向性は読み</p>

	取れますが、家庭に対して具体的にどのような安心感を提供していくのか、どのような関わりを想定しているのかといった点も、連携の中身として示すことができるのではないのでしょうか。
会長	他にご意見等ある方もいらっしゃると思いますので、12月19日までに事務局の方にお示ししていただければと思います。 次回、1月29日が今年度最後の回となりまして、中間報告案の取りまとめをしたいと思いますので、ご協力をよろしくお願いいたします。
<b>3 閉会</b>	
会長	本日の議題は全て終了しましたので、進行を事務局にお返ししたいと思います。ありがとうございました。
事務局	委員の皆様、長時間にわたりご協議いただきましてありがとうございました。先ほど会長の方からありましたけれども、次回が今年度最後の審議会になります。本日、多数のご意見いただきましたけれども、その意見を踏まえて、中間報告の案を再度お示ししたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。
教育長	本日はありがとうございました。より具体化を図りなさい、より統一化を図りなさいというご意見が出されて、私はよかったと思っております。 こどもが減っている、校舎が老朽化している中、これからの方向性を考えてくださいということでここに集まっていただきました。早くしてほしかった、お金はあるのかという声をいただいてから、もう7回目でございます。今後、地域の方に出ていながら計画の案をまとめていくことも考えております。参加いただき、忌憚のないご意見を出していただきますようお願いいたします。
会長	以上を持ちまして、第7回高砂市新たな学校づくり推進審議会を終了いたします。